

定期巡回・随時対応型訪問介護看護
第13回介護・医療連携推進会議

24 芝ケアステーション

令和 4年 9月

新型コロナウイルスの感染予防のため、今回も書面開催とさせていただきました。

1 内容

- ・運営状況のご報告
- ・事例紹介
- ・ご意見・ご要望について

2 資料送付先

このたびは、当事業所利用者様の担当居宅介護支援事業所およびサービス提供地域の地域包括支援センター、連携先訪問看護事業所、一部医療機関に資料を送付させていただきました。

3 運営状況のご報告

利用者数：29名（8月実績）

訪問看護利用率：75.9%

平均介護度：2.7

・サービス提供状況

	利用者数	定期訪問	随時対応	随時訪問
3月	27	1607	40	40
4月	29	1618	46	46
5月	28	1688	54	54
6月	28	1705	54	54
7月	29	1842	62	62
8月	29	1814	74	74

・人員体制（8月末現在）

管理者：1名

計画作成責任者：2名

オペレーター：8名

訪問介護員：13名

・所感

これまで当事業所では、職員・利用者様の新型コロナウイルス感染者は散発的に発生する程度でありましたが、このたびの第7波では、7月下旬から8月中旬にかけて職員3名と利用者様3名が陽性となり、甚大な影響を受けました。

当事業所の新型コロナウイルス感染症に対する考え方を述べたいと思います。職員の感染および濃厚接触につきましても、厚生労働省の示す基準に従って対応しておりますが、抗原検査による前倒しは適用しておりません。

利用者様やその同居家族が陽性となった場合は、次の手順で対応しております。

①入院対応またはご家族対応が可能であれば、サービス提供を一時停止する。

②上記①が不可能な場合は、提供するサービスを生命維持に不可欠な最少限度に減らし、スタッフを固定（感染拡大リスクを最小化）してサービス提供を継続する。

新型コロナに関連して残念な事例がありました。家族に介護力がない利用者様が陽性になった際（入院もできず）、訪問看護や訪問診療やケアマネ等一切来なくなり、普段訪問看護でしていることも当方ですよう指示があり、デイサービスにも行けないので、ほぼ全てを我々で対応したことがありました。その利用者様は療養解除後すぐに施設入所となってしまいました。また報道で、訪問介護がサービス提供を一時的に停止したため、全て訪問看護がせざるを得なくなったという事例も聞きおよびました。

このような状況を残念に思いました。

4 事例紹介

※利用者様のプライバシー保護のため、不特定多数への公開は控えさせていただきます。

5 ご意見ご要望等

・独居で寝たきりの患者様も多いので、ありがたいサービスだと思っています。

（市内医療機関）

・地域の方々の支援の中で、とても心強いと感じます。（地域包括支援センター）

・引き続き、定期巡回が正しく理解され、地域に広がっていくことを願います。

（訪問看護ステーション）

・利用者様についての情報交換、ケアの検討を関わっている職種で、随時行えるといいのではないかと考えています。（訪問看護ステーション）

・コロナ禍において、事業所によっては、濃厚接触者の段階で支援を拒否されるケースもあります。緊急時に備えて、チーム間で、代替サービスも含め、備えておく必要があると思います。（居宅介護支援事業所）

・緊急時、体調不良時に柔軟に対応できるのは定期巡回の強みであると感じていますが、利用者様にとって、時間単価に対する満足度はどうなのだろうかと思うこともあります。

（居宅介護支援事業所）

※全ての掲載ができておりません。ご容赦ください。